

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成30年4月26日(2018.4.26)

【公開番号】特開2017-22028(P2017-22028A)

【公開日】平成29年1月26日(2017.1.26)

【年通号数】公開・登録公報2017-004

【出願番号】特願2015-139827(P2015-139827)

【国際特許分類】

H 0 1 R 13/6581 (2011.01)

H 0 1 R 13/6466 (2011.01)

H 0 1 R 13/6594 (2011.01)

H 0 1 R 12/71 (2011.01)

【F I】

H 0 1 R 13/6581

H 0 1 R 13/6466

H 0 1 R 13/6594

H 0 1 R 12/71

【手続補正書】

【提出日】平成30年3月15日(2018.3.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

図 2、図 3 及び図 5 を参照すると、保持部材 4 0 , シェル 5 0 , 5 つのコンタクト 6 0 及び 4 つの第 2 コンタクト 7 0 は、内部構造体 1 2 を構成している。換言すれば、コネクタ 1 0 は、その一部として内部構造体 1 2 を含んでいる。但し、本発明は、これに限られない。例えば、コネクタ 1 0 は、内部構造体 1 2 のみを備えていてもよい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 6】

コネクタ 1 0 は、U S B 3 . 0 接続に関連する主な部材や部位として、シェル 5 0 と、2 つのシェル被固定部 5 8 と、1 つのグランドコンタクト 6 0 G と、2 つの差動対 6 0 P とを備えている。グランドコンタクト 6 0 G は、接続部 6 2 と、連結部 6 6 と、被固定部 6 8 であるグランド被固定部 6 8 G とを有している。差動対 6 0 P の夫々は、2 つの信号コンタクト 6 0 S からなる。信号コンタクト 6 0 S の夫々は、接続部 6 2 と、連結部 6 6 と、被固定部 6 8 である信号被固定部 6 8 S を有している。以下、これらの部材や部位の構造や機能について更に詳しく説明する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 2】

図 6 を参照すると、コンタクト 6 0 は、U S B 3 . 0 接続以外の用途にも使用できる。コネクタ 1 0 は、コンタクト 6 0 の用途に係らず、 $N + 2$ 個 (N は 1 以上の整数) のコンタクト 6 0 を備えている。2 つのシェル被固定部 5 8 及び $N + 2$ 個の被固定部 6 8 は、 Y 方向において互いに隣り合って 1 つの被固定部列 1 6 X (図 1 4 参照) を形成している。被固定部列 1 6 X において、被固定部 6 8 は、 Y 方向に沿って一列に並んでおり、且つ、シェル被固定部 5 8 は、 Y 方向における被固定部列 1 6 X の両端に夫々位置している。 Y 方向に沿って被固定部列 1 6 X を見ると、シェル被固定部 5 8 の夫々は、被固定部 6 8 と少なくとも部分的に重なっている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1 1】

回路基板に搭載されるコネクタであって、
シェルと、夫々が前記回路基板に固定される 2 つのシェル被固定部と、 $N + 2$ 個 (N は 1 以上の整数) のコンタクトとを備えており、
前記シェル被固定部の夫々は、前記シェルに接続されており、
前記コンタクトの夫々は、前記回路基板に固定される被固定部を有しており、
2 つの前記シェル被固定部及び $N + 2$ 個の前記被固定部は、ピッチ方向において互いに隣り合って 1 つの被固定部列を形成しており、
前記被固定部列において、前記被固定部は、前記ピッチ方向に沿って一列に並んでおり、
且つ、前記シェル被固定部は、前記ピッチ方向における前記被固定部列の両端に夫々位置しており、
前記ピッチ方向に沿って前記被固定部列を見ると、前記シェル被固定部の夫々は、前記被固定部と少なくとも部分的に重なっている
コネクタ。